

◇ 9月の天文暦 ◇

| 日 時 | 記 | 事 |
|-------|---------------|---|
| 4 21 | 朔 | |
| 6 17 | 月最近 | |
| 8 17 | 白露 (太陽黄経165°) | |
| 11 12 | 上弦 | |
| 18 19 | 天王星合 | |
| 19 2 | 望 | |
| 19 5 | 金星留 | |
| 20 9 | 土星月の南 1° 通過 | |
| 22 9 | 月最遠 | |
| 24 3 | 秋分 (太陽黄経180°) | |
| 27 7 | 下弦 | |

惑星めぐり(8)一月面異常現象の観測

死の世界と考えられ勝ちな月面にも古くは18世紀中頃から Schröter 等の優秀な観測者による発光現象に関する記録が残されている。最近になって、Alter の60吋反射鏡による写真、Kozyrev による分光写真等によって月の内部からガスがアルホンス中央峰より噴出する事が確認された。眼視的な観測も近來数多く月面上に広く分布しておりあたかも地球上の火山現象の様な様相を呈している。亦噴火の現象の多くは月が遠地点又は近地点付近にある時に起つているものと思われる。

B. A. A. の Moore 氏によると特に注意すべき地点としてはアガラム岬、アルホンス、アリストルクス、コベルニクス、ガッセンディ、ヘロドスとシユレーター峡谷、ヒギヌス、ケブラー、リンネ、メシヤ、ベタビ

東京における日出入および南中 (中央標準時)

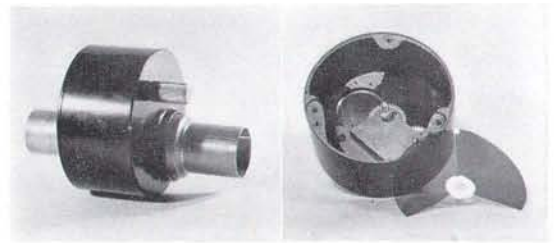
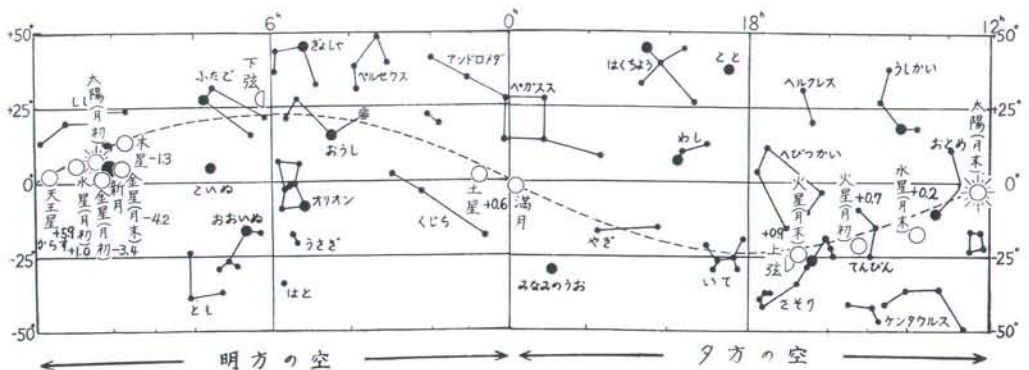
| 8月 | 夜明 | 日出 | 方位 | 南中 | 高度 | 日入 | 日暮 |
|----|------|------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 日 | 時 分 | 時 分 | | 時 分 | | 時 分 | 時 分 |
| 1 | 4 39 | 5 12 | +11° 3 | 11 41 | 63° 1 | 18 10 | 18 43 |
| 10 | 4 47 | 5 19 | + 6.8 | 11 38 | 59.4 | 17 57 | 18 29 |
| 20 | 4 54 | 5 26 | + 2.0 | 11 35 | 55.5 | 17 43 | 18 14 |
| 30 | 5 2 | 5 34 | + 2.7 | 11 31 | 51.6 | 17 28 | 18 0 |

各地の日出入補正值 (東京の値に加える)

(左側は日出 右側は日入に対する値)

| | 分 | 分 | | 分 | 分 | | 分 | 分 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 鹿児島 | +38 | +35 | 鳥 取 | +22 | +22 | 仙 台 | -5 | -3 |
| 福 岡 | +38 | +36 | 大 阪 | +17 | +16 | 青 森 | -6 | -4 |
| 広 島 | +29 | +28 | 名古屋 | +11 | +11 | 札 幌 | -9 | -4 |
| 高 知 | +25 | +24 | 新 潟 | +2 | +3 | 根 室 | -26 | -11 |

◇ 9月の日月惑星運行図 ◇



ウス、ピッカリング、プラトー、シッカルド、チイコ等で遠地点、近地点の頃に特に留意して欲しいとの事である。

この噴火現象の多くはピンクから赤又はオレンジ色の斑点であり、その現象の継続時間は数分から長くて30分程度のもが多い。観察するには月面図を頼りに目標を見ておればよいのであろうが、その多くは淡い色らしく他の月面と識別するのに困難なものが多いらしく、不幸にして本邦ではまだ誰も確認した事がない。

上の写真は Sartory 氏が考察した簡単な装置である。2色のフィルター(コダック・ラッテン80B—青と25—赤)を120°の扇型に切り、つなぎ合せて回転させる様にし、歯車とつまみによつてアイピースの視野内に交互に挿入出来る様になっている。この方法によって赤斑を黄色い月面から浮上がらして検出しようと言う訳である。通常の観察はフィルターの無い所を視野内に廻して行う事になる。

この仕事は望遠鏡の口径も20~30mm程度でよく手軽であり且つ、この装置も手製で充分であるので今後共我国に於ても月面の火山噴火が発見される事を期待したい。

(中井善寛)